

2020 年度 長期滞在型・ロングステイ観光学会 分科会について

1. 「海外（東南アジア圏）での美容医療における問題点に関する研究会」

代表申請者 倉田 大輔（池袋さくらクリニック）

- ・テーマ： 海外での美容医療受療における、問題点と注意点を研究する。（2017 年からの継続テーマ）
- ・目的： 海外（東南アジア・東アジア）、特に駐在員や長期滞在者が多い土地で、現地医療機関を受診し、気軽さや低価格から美容医療を受ける人が多い。一方で、肌の色・質などが異なる上、医療者とのコミュニケーション不足もあり、「結果に満足がいかない（肌トラブルの発生）」事例が起きている。そこで現地日本人経営企業や各種組織と協力調査を行い、長期滞在者が、より安全な美容医療を受けられるための注意喚起や啓発を行うこと、日本でのインバウンド医療発展の参考にする目的で行う。
- ・予想される発表成果： 具体的な事例や現地の医療機関への調査を行うことで、実態や問題点を調査する。
- ・成果の発表方法： 学会発表や記事・執筆など各種媒体

2. 「一時帰国等の利便性向上による海外ロングステイ促進に関する研究会」

代表申請者 花井 友美（帝京大学）

海外ロングステイは、「生活の主たる源泉を日本におきながら、海外の一箇所に比較的長く滞在し、その国の文化や生活に触れ、現地社会での貢献を通じて国際親善に寄与する海外滞在型余暇」の総称である。その主体である海外ロングステイヤーについて、彼らの生活の基盤は日本にあり、ロングステイ先と日本との間を頻繁に往復する。往復にあたっては、渡航の目的、距離・時間に関係なく、共通してほぼ同じような手続きや書類が必要であり、その上でロングステイ先の国・地域ごとの対応が求められる。

2019 年度の分科会研究において、日本からの海外ロングステイヤーが多いマレーシアにおける現地ヒアリング調査とアンケート調査を通じ、マレーシアに滞在する日本人海外ロングステイヤーがどのような旅行障壁を認識しているかを分析した。その結果、旅慣れたロングステイヤーであっても、マレーシア入出国審査時の手続きにおいて、煩わしさを多少なりとも感じていることが明らかになった。

本分科会は、2019 年度の研究成果を踏まえ、①2020 年 1 月のクアラルンプール国際空港第 2 ターミナル (KLIA2) の入国審査エリアのリニューアルが日本人ロングステイヤーの利便性向上にどのように貢献しているかを定量的に明らかにする、②ロングステイヤーとロングステイ希望はあるがロングステイ未経験のロングステイ予備軍における旅行障壁の認識の違いを明らかにすることで、海外ロングステイの推進に必要な諸条件を整理し、関連課題を提示することを目標とする。なお、成果は本学会の学術大会等で発表し、公表する。